



令和2年度 第1号 (令和3年1月26日発行)



宮城教育大学
附属学校部だより

THE NEWS OF ASD

附 小学校・附 中学校・附 特別支援学校・附 幼稚園

ASD ASD
ASD ASD
ASD A
ACE

※ ASDは附属学校部の英字表記であるAffiliated School Divisionを略したものです。

「不安を乗り越えて」

附属幼稚園では、10名の学生が教育実習を行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年行っていた保育参観や保育参加の機会を設けることができず、実習生にとっては不安が多かったことと思います。

実習に先立ち、オンラインで配属学級の担任と保育の流れや幼児の実態、感染症対策などについての相談会を行った際に、例年のように観察や準備ができない状況ながら、「好きな遊びの時間で、こういう遊びを取り入れたいと思っているのですが、幼児の実態や生活経験を教えていただきたいです」と前向きな質問が多く出ました。思うように実習生同士で教材研究ができない中でも、今できることを考えて、最大限の準備をしようとしている姿が見られました。

実習初日の実習生の表情は硬く、不安な気持ちが伝わってきましたが、いざ実習が始まると、子どもたちの笑顔とパワーにつられ、実習生にも笑顔が見られるようになりました。例年とは違い、感染症対策に配慮しながら行う活動は、思うようにいかないことも多かったようで、検討会では涙する学生も多かったです。それでも「明日はこうしよう」と自分の課題を見極め、学びを重ねていきました。

実習が後半になるにつれて、それぞれが子ども一人一人に寄り添って保育をするだけでなく、チームで保育する意識が芽生え、実習生同士で協力する場面が増えてきました。また、自分が得意なことを生かして遊びを展開したり、自分の良さを生かして子どもと関わったりする姿も見られるようになりました。『幼児理解』や『環境構成の重要性』、『チームで保育をすること』への理解を深めながら、自分なりの保育への向き合い方を考える機会になったようです。不安な状況で始まった実習ですが、真剣に保育と目の前の子どもたちに向き合い、最後は笑顔で終えることができました。

私たち教師にとっても、実習生が幼児と向き合う姿から気付かされることが多くあり、改めて教師としての在り方を考える貴重な機会となりました。実習中は、保護者の方にも、多大なご理解とご協力をいただいております。実習生へのたくさんの温かいお言葉や励ましの言葉をいただきました。今後も今年度のような状況が続くことも考えられますが、保護者の皆様に感謝しながら、学びの多い実習になるように力を尽くしていきたいと思えます。



【一人一人の言葉に耳を傾けて】



【子どもの目線で一緒に楽しむ】

(附属幼稚園 教諭 佐藤 みちる)

「いつもとはちがう実習を通して」

新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動全般が例年通りとはいかなかった今年度。教育実習もまた、いつもとは違う日程で、いつもとは違う方法を模索しながらの取組となりました。その中でも、Ⅰ期学生99名、Ⅱ期学生107名、教職大学院生16名、合わせて222名全員が教育実習に参加し、無事修了できたことを何よりうれしく思います。

教育実習に向けた事前の指導や連絡もオンライン型に切り替えたため、Ⅰ期の学生は、学級の児童と一度も会うことなく実習初日を迎えることになりました。大学の授業もオンライン型で実施されていたため、人と関わること自体が約半年ぶりという学生も少なくありませんでした。いつもなら、「給食の時間は児童理解を深める絶好の機会」とアドバイスするところですが、今回は、別会場での食事となった



【今年の給食は別会場で】

ため、その機会も生かすことができません。そのような状況下ではありましたが、学生の皆さんは、朝早くに出勤し、始業前から校庭に出て、遊びに参加するなどして、子どもとの関係を深めようとしていました。日が経つにつれ子どもとの距離が近くなり、喧嘩の仲裁をする姿や生活指導の難しさに悩む姿が見られ、そんな学生たちをととても頼もしく感じました。

授業では、学生も子どももマスクを着用しています。指示や発問の意図が伝わっているか、困っていることはないかなど、子どもの表情から得られる情報はたくさんあります。また、授業者からも、表情を通して子どもに伝えられることもあります。しかし、今回はそ

れも難しい状況です。その分、教具を工夫したり、個別指導を充実させたりするなど、指導教諭のアドバイスを生かしながら、仲間とともに手立てを考え、実践を通して学びを深めることができました。「授業を行う難しさを感じた。同時にやりがいも感じた」や「子どもの発想は多様であり、それらを生かした授業を行う難しさを知った」と事後アンケートに記す学生も多く、よい学びの機会となったことが見て取れました。

感染症対策を講じるに当たって、教育実習の取組を改めて見直すことになり、「教育実習として何をすべきか」、「その取組にはどのような価値があるのか」といった本質的な問いについて考えるなど、私たち附属小学校の教員にとっても学びの多い機会となりました。



【反応をよく見て授業を展開】

(附属小学校 教諭 佐藤 拓郎)

「コロナ禍の教育実習」

今年度の教育実習は、例年のそれとは大きく違うものとなりました。実習期間は10日間を8日間に短縮、授業実践は一人2回までに制限、参観時に教室に入る人数も制限、昼食も教室ではなく実習生控え室で等々。マスク着用、日々の実習生の健康観察等も含め、本当に多くの制限の下での教育実習となりました。特に第Ⅰ期実習生は、それまでの大学講義がリモートで行われていたため、教育実習の現場が今年度初めての他の仲間たちと学び合うスタートとなりました。その様な意味でも大変だったのではと思います。

しかし、朝出勤して、控え室からすぐに生徒の活動場所に行く彼らの後ろ姿は、日に日に頼もしく成長したように見えました。多くの制限がある中、それを前向きに捉えながら、できることにしっかりと取り組んでいました。実習最終日に行ったアンケート結果（図1）からも、その様子をうかがい知ることができます。

ある実習生の感想を紹介します。

「学級、教科ともに指導の先生方には本当にたくさんの学びや発見をさせていただきました。自身の教育観を深められたとともに、しっかりと研究授業や仮担任の仕事を終えることができました。ご指導ご鞭撻本当に感謝しています。子どもたちの輝いたまなざしは、実習生の私たちの励みになるとともに、熱意にもなりました。短い期間ではありましたが、本当に濃い、充実した8日間でした。教育観はもちろん人生観も変わった実習だったように思います。この8日間の思い出を私は一生忘れないだろうと思います」

最後に、前もってしっかりと新型コロナウイルス感染症の感染予防に努め、実習本番に臨んだ学生の皆さんと、その学生たちを温かく迎えてくれた本校の生徒たちに、心から感謝したいと思います。

図1 8日間の教育実習を通して当てはまるものを選んでください。

	質問項目	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
①	教師の仕事内容を理解した。	65	60	3	1
②	教科指導に関する理解が深まった。	114	14	1	0
③	学級経営に関する理解が深まった。	76	49	3	1
④	道徳教育について理解が深まった。	50	55	10	14
⑤	学習指導案の書き方を理解することができた。	86	43	0	0
⑥	教材研究が十分深められた。	89	34	6	0

(人)



【生徒の輝くまなざしに応えるために】



【8日間の熱意ある指導に感謝】

(附属中学校 教頭 米川 聡)

「今年度の教育実習を通して」

今年度、本校では、前期27名、後期27名、計54名の実習生を迎えました。小学部、中学部、高等部に分かれ、それぞれの学部の子どもたちと一緒に活動しました。

今年度は、事前に来校してのオリエンテーションや授業参観ができず、子どもたちとどのように接すればよいのか、授業はどう作るのか、どんな教材を準備すればよいのか、指導案はどう書くのか、仲間とどのように連携すべきかなど、例年以上に心配や不安を感じる実習生が多かったように思います。そのような中、指導教諭とメールや電話でやり取りしながら情報収集に努める実習生の姿も見られました。

実習が始まり、授業時間や休み時間、給食指導など、子どもたちと気兼ねなく、存分にかかわる場面を設定することが難しい中でも、互いに支え合いながら、積極的に学びを得ようとする実習生が多く見られました。実習の日々が過ぎていく中、物理的な距離は保ちつつも、実習生と子どもたちとの心の距離が徐々に縮まり、両者のかかわりの中に、笑顔や自然なやり取りが増えていきました。様々な取組が制限される中、最終日まで授業を改善し、子どもたちの学びのために精一杯努力する姿をたくさん見ることができ、頼もしく思いました。

最終日のアンケートには、「教師という職業のすばらしさを感じた」「数え切れない程の経験と新しい発見をすることができた」「チームティーチングの重要性を実感できた」「一人一人のニーズに応じていく充実感と大変さを味わうことができた」などの感想が書かれていました。実習生の皆さんには、今回の経験で学んだことをこれからの成長につなげ、社会人として生き生きと活躍されることを期待しています。

本校では来年度も、子どもたちにとっても、実習生にとっても、我々職員にとっても学びの多い実習とできるように、社会の情勢に臨機応変に対応しながら、引き続き力を尽くしていきたいと思えます。



【子どもの目の高さで】



【仲間と共に教材研究】

(附属特別支援学校 教諭 八木 俊信)